古文単語 現代語訳の誤りを直す ①

高校／印のついた訳を、本文に合う意味に直す

名前 _____

日付 _____

各問に原文と訳があり、訳の――線の部分は古語の意味の取り違えです（誤りはこの1か所だけ）。
その問の原文の中で古語の意味を決め、――線の部分の正しい訳を「正しい訳」の欄に書きなさい。
原因は「原因」の欄に記号で答える。ア＝現代語の意味のまま訳した　イ＝その語の別の意味を選んだ

1 原文　すさまじき物にして見る人もなき月の、寒けく澄める二十日あまりの空こそ、心ぼそきものなれ。（徒然草・第十九段）

訳　ものすごいものとして見る人もいない月が、寒々と澄んでいる二十日あまりの空は、心細く感じられるものだ。

正しい訳	原因

2 原文　花橘は名にこそおへれ、なほ梅のにほひにぞ、いにしへの事も立ちかへり恋しう思ひ出でらるる。（徒然草・第十九段）

訳　花橘は名で知られているが、やはり梅の美しい色つやによって、昔のことも立ち返って恋しく思い出される。

正しい訳	原因

3 原文　さるべきゆゑありとも、法師は人にうとくてありなむ。（徒然草・第七十六段）

訳　そうなる運命の理由があっても、法師は人と疎遠でいるのがよいだろう。

正しい訳	原因

4 原文　花のもとには、ねぢより立ちより、あからめもせずまもりて、酒飲み、連歌して、はては大きなる枝心なく折り取りぬ。（徒然草・第百三十七段）

訳　花の下では、にじり寄ったり立ち寄ったりして、よそ見もせずに守って、酒を飲み、連歌をして、しまいには大きな枝を無分別に折り取ってしまう。

正しい訳	原因

5 原文　鳥部野、舟岡、さらぬ野山にも、送る数おほかる日はあれど、送らぬ日はなし。（徒然草・第百三十七段）

訳　鳥部野、舟岡、避けられない野山にも、死者を送る数が多い日はあるが、送らない日はない。

正しい訳	原因

6 原文　あからさまに聖教の一句を見れば、何となく前後の文も見ゆ。（徒然草・第百五十七段）

訳　あからさまに聖教の一句を見ると、なんとなく前後の文も目に入る。

正しい訳	原因

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます